

令和7年3月12日

ひのしまおおはし
樋島大橋の直轄診断結果報告

～上天草市へ技術的助言を実施～

- 国土交通省では、地方公共団体への支援として、要請により緊急的かつ高度な技術力を要する施設について、地方整備局、国土技術政策総合研究所、土木研究所の職員等で構成する「道路メンテナンス技術集団」による直轄診断を平成26年度より実施しています。
- 九州地方整備局では、令和6年9月20日から熊本県上天草市管理の樋島大橋において実施しておりました直轄診断の結果報告を、下記のとおり道路メンテナンス技術集団が行いますので、お知らせします。

記

- 日時 令和7年3月18日（火）14時00分～15時00分（予定）
- 場所 上天草市役所（大矢野庁舎）2階 会議室

〔添付資料〕

- 別紙1 直轄診断、道路メンテナンス技術集団
- 別紙2 樋島大橋の概要
- 別紙3 直轄診断現地調査について

※報道関係者の皆様へ

- ・当日の取材及び撮影は可能です。
 - ・当日取材される予定の方は、別紙4「送信票」に記入の上、3月17日（月）12時までに下記FAX宛に送付をお願いします。
- FAX番号は別紙4「送信票」に記載しております。

【問い合わせ先】

- 国土交通省 九州地方整備局 TEL：092-471-6331（代表）
- （直轄診断に関すること） 道路部 道路保全企画官 やすなか つとむ 安仲 努 （内線 4121）
道路構造保全官 いわなが としたか 岩永 敏孝 （内線 4122）
- （当日の取材に関すること） 熊本河川国道事務所 TEL：096-382-1111（代表）
総括保全対策官 こが たかのり 古賀 尚永 （内線 308）

【直轄診断】

「橋梁、トンネル等の道路施設については、各道路管理者が責任を持って管理する」(道路法第13条～16条)という原則の下、それでもなお、地方公共団体の技術力等に鑑みて支援が必要なもの(複雑な構造を有するもの、損傷の度合いが著しいもの、社会的に重要なもの、等)に限り、国が自治体からの要請に基づき、地方整備局、国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人土木研究所の職員で構成する「道路メンテナンス技術集団」を派遣し、技術的な助言を行うもの。

【道路メンテナンス技術集団メンバー】

九州地方整備局 道路部 道路保全企画官 (リーダー)

同 道路部 道路構造保全官

同 熊本河川国道事務所 総括保全対策官

同 九州道路メンテナンスセンター センター長

国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 橋梁研究室長

国立研究開発法人 土木研究所

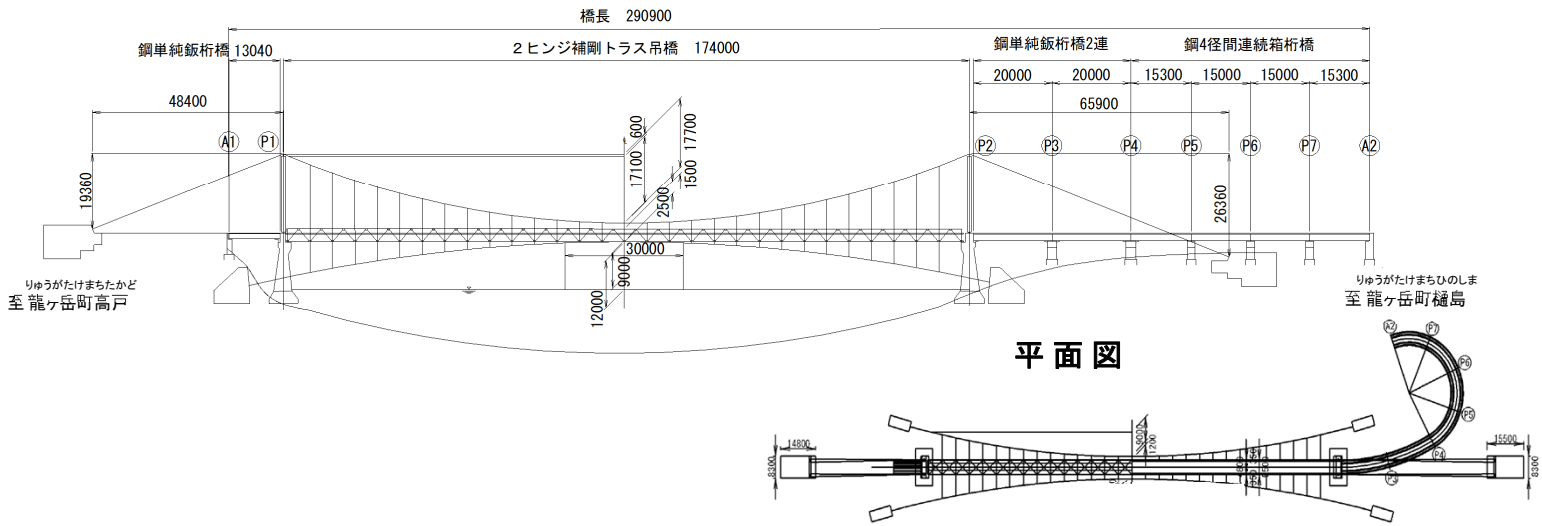
構造物メンテナンス研究センター 上席研究員

ひのしま おおはし 樋島大橋の概要

別紙2



側面図



位置図

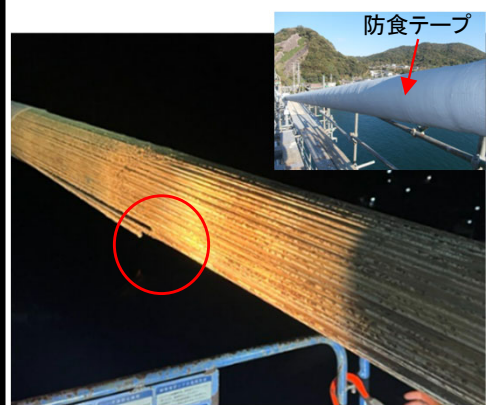


樋島大橋 諸元 (供用年 昭和47年)「1972年」

鋼単純鉸桁橋+2ヒンジ補剛トラス吊橋+鋼単純鉸桁橋2連
+鋼4径間連続箱桁橋

橋長 290.9m 幅員 5.2m 8径間

【損傷状況等】
(防食テープを外した状態)



高度な専門技術が求められる吊り橋という特殊な構造形式の橋であり、主ケーブルの破断や主塔の腐食、支承の損傷等が見られる。

この背景地図等データは、国土地理院の電子国土Webシステムから配信されたものである。

○直轄診断開始日：令和6年9月20日
 ○場所：樋島大橋（熊本県上天草市龍ヶ岳町）



【高所作業車を用いた点検状況】



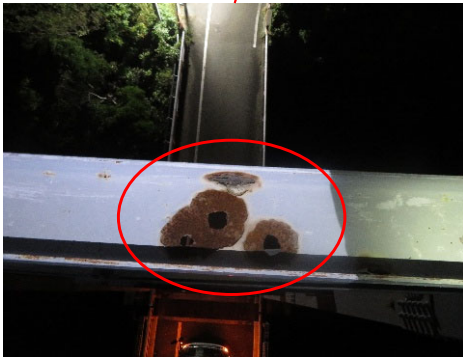
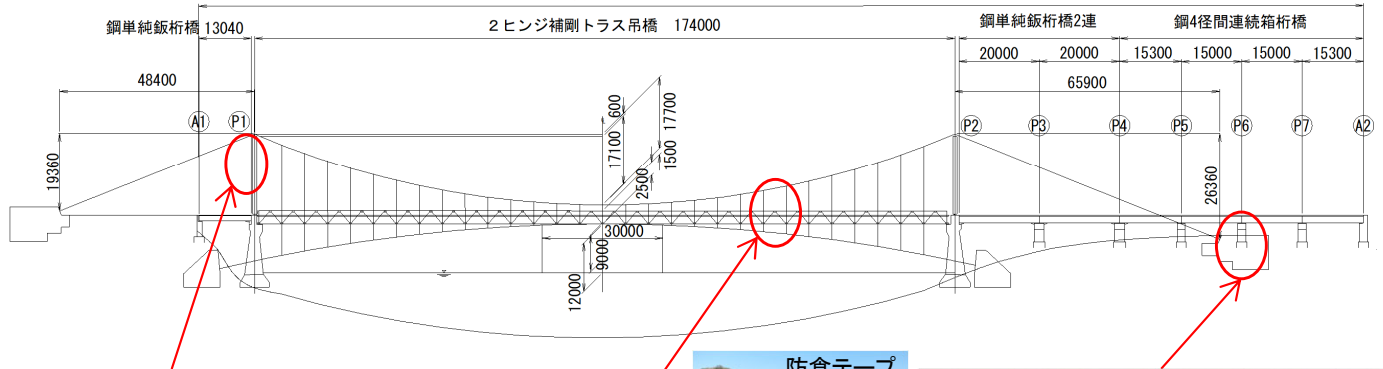
【主ケーブルの近接目視】



【伸縮装置の点検状況】

＜樋島大橋で発見された主な損傷＞

橋長 290900



①【主塔(横梁)の腐食】



②【主ケーブルの破断】
 (防食テープを外し調査実施)



③【支承の損傷】
 (P6橋脚上のサイドブロック破断)

①主塔などに飛来塩分や雨水の滞留の影響と考えられる腐食、防食機能の低下が見られる。耐荷性能への影響は限定的と推定されるものの架橋環境を考慮すると、今後の進展が見込まれることから、早期に対策を行うのが適切と考えられる状態である。

②過去に主ケーブル素線の一部破断が確認されており、建設当初より耐荷性能は低下している状態と言える。さらにケーブルシステムの防食機能低下や一部腐食も確認されることから、現状維持を図る場合にも、耐久性能の回復措置が必要な状態と言える。
 なお、現状より耐荷性能を向上させるためには目標設定を行い、必要な調査や構造解析等による検討が必要である。

③樋島側の側径間は温度変化や活荷重対して複雑な挙動が生じるループ橋であり、一部の支承が損傷して著しい機能低下を生じている疑いがある。
 現状のままでは地震時に深刻な被害を生じることも考えられ、本橋全体の耐震性能の評価と併せて支承部の機能回復などの対策を検討するのが望ましい状態と言える。

送 信 票

当日の取材にあたってのお願い

取材にあたりましては、3月17日(月)12時00分までに、下記ご記入のうえ、本状のFAXをお願いします。

【記】

国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所 道路管理第二課 行
(FAX:096-382-0661)

住所 〒

会社名

部署

取材者氏名

TEL

メールアドレス

※こちらから連絡させていただく場合があります。連絡がとれる電話番号をご記入ください。